

星林高等学校

実施日時	令和2年11月6日（金）
参加者	生徒826名、教職員72名 計898名
実施内容	新型コロナウイルス感染防止のため、実施内容を大きく縮小・変更。 避難行動と防災講演会のみ実施。

ねらい

災害発生時、生徒の安全を確保し敏速な避難行動がとれるようにする。参加者を主体的に行動させることで、防災意識を高め「自助」「共助」「公助」の精神を養う。「南海トラフの巨大地震」と「東海・東南海・南海3連動地震」による津波浸水・地震被害想定に対応した避難行動を取り入れる。以上の目的で、避難訓練・防災講演会を実施した。

主なプログラム

1. 避難行動（全学年）
2. 防災講演会（1学年）

概要

日 時	令和2年11月6日（金）
場 所	和歌山県立星林高等学校
参 加 者	1年生 276名 2年生 279名 3年生 271名 教員 72名 計 898名

〈3限：25分〉避難訓練（全学年）

- ①授業担当者が教室などで待機
- ②訓練開始の放送 〈1次通報〉緊急地震速報

【指示】・教室の中央へ集まる（窓ガラスの破片から身を守る）・出入口を開放する（閉じこめられないように）・全員机の下に入る（特に頭部を保護する）

- ③〈2次通報〉運動場へ移動

【指示】・静かに落ち着ついて、教員に続くよう誘導・2列で避難経路を通り運動場へ向かう

- ④集合完了・避難行動の講評

【点呼確認】・各クラス1列で整列・整列後直ち

に点呼・手順（授業担当者→学年主任→本部）に従い報告

〈4限：50分〉防災講演会（1学年）

和歌山県総務部危機管理局防災企画課

柄本邦明氏による講演

演題「大切な命を守るための適切な避難行動とは何か」

成果と課題

【成果】

新型コロナウイルス感染防止のため、例年とは異なり、実施内容を大きく縮小・変更しておこなった。

和歌山市防災マップ（高松・雑賀・雑賀崎地区）を各教室に掲示することで、災害時の状況を具体的に把握することができた。特に津波の到達状況を把握することで、校内での垂直避難だけでなく、通学時・帰宅時など校外での避難経路や避難場所を確認することができた。津波被害、道路の破損、電信柱や家屋の倒壊など、実際の状況を的確に捉え、自主的に判断し行動できることが求められる。

避難行動では、情報伝達訓練・シェイクアウト訓練等をおこない、避難場所は本校運動場とした。

和歌山県総務部危機管理局防災企画課の柄本邦明氏を招き「大切な命を守るための適切な避難行動とは何か」について講演いただいた。世界津波の日の意義、地震のメカニズムや和歌山県の地震、和歌山県で想定される津波、和歌山県を襲った風水害からの教訓、災害から身を守り逃げ切るため

の行動、避難に必要な情報の活用方法などを分かりやすくお話いただき、生徒たちは理解し身近に感じる事ができた。

【課題】

- ・今年度は11月6日（金）の実施であったが、年間行事計画を作成するなかで、より適した実施日を検討する必要がある。
- ・近隣には小学校・中学校・高校があり、地域住民の方々も含め、災害が起こった場合かなりの混雑が予想される。共同訓練の実施などを検討する必要がある。
- ・実際の災害時には混乱したなかで活動することになり、いかに緊張感を持って訓練できるかが課題である。
- ・訓練は、授業中のホームルーム教室を想定していることが多い。体育館・グラウンド・特別教室、休み時間中なども想定し、教員がその場面にいない時でも、生徒1人1人が的確な判断ができるような訓練も必要である。



机の下に入る



運動場へ移動



点呼の完了



防災講演会



柄本邦明氏による講演

「大切な命を守るための適切な避難行動とは何か」